令和 6 年度大牟田市文化芸術振興審議会 摘録

日時	令和 6 年 5 月 31 日（金） 15：30～16：40
場所	大牟田市役所新館 3 階 302 号会議室（経営会議室）
次第	<p>（委嘱状の交付）</p> <p>1 審議会委員自己紹介（資料 1）</p> <p>2 審議会について（資料 2）</p> <p>3 会長、副会長の選任 （議題）</p> <p>1. 第 2 期文化芸術振興プランに掲げる事業の令和 5 年度の取組み状況について（資料 3）</p> <p>2. 第 3 期文化芸術振興プランにおける令和 6 年度の主な取組みについて（資料 4）</p> <p>3. その他</p>
出席者	<p>（審議会員）</p> <p>日下部委員、甲斐田委員、野中委員、深浦委員、三宅委員、梶原委員、砥上委員、高倉委員、橋本委員</p> <p>（事務局）</p> <p>大倉野市民協働部長、高口市民協働部副部長、徳川課長、龍主査、宮川（生涯学習課）</p>
欠席者	<p>（審議会員）</p> <p>北島委員</p>

（委嘱状の交付等）

令和 6 年 5 月 1 日より新たな任期となることから、全委員に委嘱状を交付。

各委員の自己紹介後、大牟田市文化芸術振興審議会の概要について事務局より説明。

大牟田市附属機関設置条例に基づき、審議会の会長及び副会長各 1 人を選任する必要があることから、事務局より以下のとおり提案。

会長：九州大谷短期大学 日下部委員

副会長：大牟田文化会館館長（公財）大牟田市文化振興財団常務理事 甲斐田委員

→ 出席委員全員が承認。

（議題）

1 第 2 期文化芸術振興プランに掲げる事業の令和 5 年度の取組み状況について資料 3

（事務局）資料 3 に沿って説明

（委員）

NO.20 の文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業の延期となったワークショップは、申込者は何人だったのか。また、何人であれば実施できたのか。

(事務局)

定員は30人で設定していたが、申込みは1人。10人位申込みがあれば実施していた。この事業は、文化芸術をまちづくりに活用する手法等を学び、アイデア等のきっかけづくりとなるようなワークショップ等を予定としていたが、時期設定や対象者へのアプローチにもっと工夫が必要であった。今年度実施するに当たっては、その点についてよく再考して実施したい。

(委員)

同じく、NO.20の文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業の小学校で実施している演劇ワークショップについて、以前は羽山台小学校でずっと行っていた。今後は、市内の小学校を順に実施していく予定なのか。

(事務局)

実施校については、教育委員会とも相談しながら決定している。令和5年度も最終的に教育委員会が調整し、中友小学校と倉永小学校となった。各校の特色や校長の考え方等を考慮し選定された。生涯学習課としては、今後の展開として、市内各校の実施を増やしたり、小中一貫教育の中で例えば中学生と小学生でワークショップなどを行いたいと考えている。しかし、学校教育の一環の事業なので、最終的には教育委員会や学校長の判断に委ねている。

(委員)

子どもの頃や若い頃に演劇に触れる機会は大切なので、できるだけ多くの子ども達に演劇に触れる機会を作ってもらいたい。

(委員)

対象を広げれば、ファシリテートする人材も必要となる。それが両輪で進まないとなかなか広がらない。難しいと思うが、多くの子ども達が演劇に触れられるように、力を入れていただきたい。

(委員)

NO.17の文化庁文化芸術による子供育成総合事業の活用について、R5年度は活用がなかったようだが、学校の行事等で忙しいというのは理由の1つとしてあると思う。それ以外の理由が何かあるのか。また、これまで文化庁のメニューの活用があったのかを教えてください。

(事務局)

学校の鑑賞事業は、文化庁のメニューだけではなく、福岡県のメニューを活用する学校もある、R5年度は、文化庁のメニューを活用されなかったが鑑賞事業自体は実施している。文化庁メニューの活用状況については、詳細な時期や件数は分かり兼ねるが過去に活用したことはある。

(委員)

NO.31のアートマネージャーやコーディネーターの養成及び支援について、R6年度の実施予定があれば伺いたい。

(事務局)

アートマネージャーやコーディネーターの養成について、R6年度は、研修等の予算は計上しているが、どういったことをやるかは未定。

2 第3期文化芸術振興プランにおける令和6年度の主な取組みについて 資料4

(事務局) 資料4 に沿って説明

(委員)

文化会館整備事業について、文化会館は大雨が降るとロビーの天井から雨漏りがしている。そちらの対応の予定は何かあるか。

(事務局)

今年度から3ヵ年かけて外壁等の改修を予定しており、その中で雨漏りしているロビーの天窗についても補修等行う。外壁等については、20年に1度予防保全として改修を行うように計画されており、今年度から3年間で劣化している外壁や天井などを改修していく。

(委員)

雨漏りは頻繁に起こっているが、利用者が滑ってけがをされないようその都度対応はしている。

(委員)

3.(6)のトップアーティスト招聘&交流事業は、具体的に想定しているアーティストがいるのか。

(事務局)

具体的な内容はまだ検討中。今回策定した第3期の文化芸術振興プランを踏まえ、実施していきたいが、委員の皆さんからもアイデア等ご提案いただきたい。

昨年度までは、子どもアートスクールツアーという、大牟田市がバスを借り上げて、子ども達が質の高い文化芸術に触れるツアーを行っていたが、定員が40名で対象にできる子どもの数が少なかった。今後はもっと多くの子ども達に質の高い文化芸術を提供するような機会を設けた方がいいのではないかということで、事業の見直しを図り、今回、トップアーティスト招聘&交流事業を新規事業としたもの。

(委員)

身近な空間を活用した学びと文化の発表事業について、大牟田市は、大牟田奏友会という楽団があるし、市内の高校も優秀なブラスバンド部がある。こういった団体がまちの色々な所で演奏する機会が増える取組みがあるといいと思う。例えば、他の自治体では、音楽の日などを独自に設けてあったりする。

(事務局)

第3期の文化芸術振興プラン策定時に実施した文化芸術団体等へのアンケートにおいて、市内の色々な場所で発表したいという要望が多かった。一方で、どこで発表できるのか分からない、またその手法も分からない等の意見もいただいた。これを踏まえて、発表等を希望する団体と施設をつなぐ取組みや他の部局で実施しているイベント時にそういった文化芸術団体を紹介するなどの取組みも行っていきたいと考えている。

(委員)

3.(7)障害のある人等による文化芸術活動推進事業について、具体的にどういった内容か。

(事務局)

1つは、福岡県が大牟田文化会館で12月に主催する「障がい者アートレンタル事業展示会」について市も共催する予定。この事業は、障害のある方が書かれた絵画等の作品を登録し、その作品を自社等に飾りたい企業にレンタルし、レンタル料の一部が著者に入るもので、障害のある人の社会参加促進につなげる取組みである。その作品の展示会について、福岡県から大牟田市に話をいただき、12月の障害者週間に合わせて文化会館で展示会を行う予定となった。大牟田市文化振興財団も共催を行う予定。

そのほか、市内の障害者関係団体と連携し、市内の障害のある方が作られた作品等を展示する機会を設けていきたいと考えており、市の施設、例えば7地区公民館などで展示をできたらと考えている。こちらも12月の障害者週間に合わせて実施していきたい。

(委員)

市民文化のつどい事業を拡充し、障害のある人の発表枠を新たに設けるとのことだが、その枠にこの障害者の方の作品展示の取組みを充てるとするのはいかがか。例えば、文化会館の展示室の中で展示を実施するなどが考えられると思う。

(事務局)

市民文化のつどい事業の枠で実施することも可能。文化会館で実施すれば施設使用料が免除になるし、市民文化のつどい事業は、実行委員会から負担金が交付されるのでメリットはある。相談があれば対応していきたい。

(委員)

大牟田美術展などで、障害のある人の作品コーナーなど設けてもらえたらいいなとも思う。

(事務局)

そういった取組みは大事だと思う。子どもたちの作品も、そういった既存のイベントに合わせて展示するという手法もある。関係団体とは今後調整をしていきたい。

障害者週間に合わせてイベントを打っていこうと考えているが、当然、福祉課との連携も必要となるため、どんな取組みができるか協議を行っている。

(委員)

大牟田特別支援学校の児童・生徒の作品展など見る機会があったが、素晴らしい作品もたくさんあるので、教育委員会も含めて取組みについて協議してほしい。

3 その他
特になし